

## 抄 録

## Beiträge zur klinik der Tuberkulose. Bd. 79, H. 1, 1931.

## 呼吸困難ニ就テ

H. W. Knipping, William Lewis und Alan Moncrieff: Über die Dyspnoe.

著者ハ、健康者並ニ種々ノ疾患ヲ有スル人ニ就テ、呼吸容量、呼吸數、分時容量、貯有氣、補充氣、肺活量、殘留氣、吸氣時ヨリ呼氣時迄ノ關係、呼吸定調等ニ就テ検査シタ。

(1). 個々ノ例ニ於テハ、貯有氣ハ、肺ノ最大能力(呼吸限界値)ト、呼吸當量(其時々ノ要求量)トノ間ノ差異ヲ示スモノデアアル。

貯有氣ガ消費サレルト、呼吸ガ苦シクナリ、呼吸困難感ヲ覺エル。

正常ノ呼吸限界値ニ於テハ、呼吸困難無シニ、呼吸ハ著シク亢進スル(昏睡、貧血、心臟性換氣亢進、炭酸呼吸等)。殘ツテキル貯有氣ハ、多クハ常ニ尙充分デアアル。之ニ反シテ、呼吸限界値ガ著シク減ズル時(左心機能不全ニ際スル肺活量ノ減少)ニハ、呼吸當量ガ唯僅カニ増加スルカ、又ハ増加セズニ、認ム可キ貯有氣ヲ存スル丈ケテ、呼吸困難ハ起ラナイ。

呼吸困難ノ重イ場合ニハ、呼吸當量ノ増加ト、最大能力ノ制限ヲ同時ニ來ス、譬ヘバ、心臟性呼吸困難ノ種々ナ場合又ハ重症ノ結核等ニ於ケル呼吸困難ガ之デアアル。

(2). 肺結核症又ハ心臟代償機障ヲ有スル患者ハ、安靜時ニ呼吸困難ヲ起サナイ。然シ乍ラ、極メテ輕度ノ作業ニ依ツテ消費サレル程ニ貯有氣ハ少イ(作業呼吸困難)。

總テ是等ノ關係ハ定量的ニ測定シ、心臟瓣膜病、氣管枝喘息、結核症、氣腫、瓦斯中毒、強直セル胸廓、昏睡、貧血等ノ多數ノ患者ニ就テ検査シタ。

(3). 病變判定ノ基礎トシテ、健康者ノ多數ニ就テ、呼吸當量、呼吸時間比率等ノ正常値ヲ計測シ、之ト共ニ、肺機能試験ニ關スル 1—2 ノ方法ノ經驗ヲ試ミタ。

(4). 呼吸當量ノ正常値ハ、1.7 及 3.0 デアル。糖尿病性昏睡ニ於テハ、12.0 又ハ其以上トナル。心臟代償機障ニ際シテハ、稀ニ 5.0 以上トナル。之ニ重イ

呼吸困難ヲ伴フ時ニハ、例外トシテ、14.0 ニ上ル。腎臟性及肝臟性昏睡ニ於テハ大ナル上昇ヲ來サナイ。貧血ノ時ニハ、之ニ反シ 8.0 ニ上ル。

正常値以下トナルノハ、肋膜ノ合併症、睡眠劑中毒(重症ナ場合ニハ、0.7 ノ價デアアル)ノ場合デアアル。

(5). 糖尿病性昏睡ニ於ケル「アチドーゼ」ハ、呼吸當量テ、速カニ且ツ容量ニ特有性ヲ示ス。昏睡ノ呼吸曲線ハ誤マラレナイ。

(6). 呼吸容量ニ就テハ、正常値ヲ擧ゲ、尙年齢ニヨル殘留氣増加ノ價ヲ論ジタ。

(7). 心臟性肺鬱血、氣管枝喘息、一定ノ肺結核症等ニ於テハ、呼吸容量値ニ對スル肺活量ハ降下スル。

(8). 氣管枝喘息症ニ於ケル呼吸、並ニ呼吸困難ノ發現ニ就テハ、一定數ノ例ヲ基礎トシテ論ジタ。

(9). 1—2 ノ疾病(強直セル胸廓、氣腫等)ニ於テハ肺機能不全ノ定義ガタテラレテオル。

(10). 呼吸及貯有氣ノ呼吸曲線描寫ハ、結核ノ虛脫療法、特ニ兩側性氣胸並ニ胸廓成形術ヲ行フニ際シテ用フ可キモノデアアルコトヲ示ス。

(11). 呼吸時間比率ニ就テハ正常値ヲ擧ゲ、貯氣及呼吸困難ノ關係ヲ検査シタ。

(12). 呼吸定調障ノ種々ナ型(腦性呼吸、睡眠劑中毒時ノ著シイ不整呼吸、動搖性呼吸、種々ナ「シェー子、ストックス型」、「假性シェー子、ストック」等)、及治療ノ結果ヲ量的ニ記載シタ。

(13). 酸素缺乏ノ識別ニ就テハ、支持點ヲ與ヘタ。

(14). 正常又ハ稍ク減少シタ貯有氣ヲ有スル心臟及肺疾患ノ判定ニ就テハ、筋作業描寫法ガ用ヒラレル。之ニ就テハ余等ノ方法ヲ述ベタ。

(15). 血中ノ一酸化炭素ノ新定量法ヲ論ジタ。

(黒丸抄)

急性全身致死性粟粒結核症ノ所謂肺型ニ就テ、及之ト小兒ノ重症血行性播種性結核症トノ臨牀的鑑別診斷ニ就テ

Kurt Nüssel: Ein Beitrag zur sogenannten pulmonalen Form der akuten allgemeinen tödlich-

en miliartuberkulose und ihrer klinischen Differentialdiagnose Gegen über der schweren hematogenen disseminierten Lungentuberkulose im Kindesalter.

急性肺型全身粟粒結核症ヲ死亡シタ3歳ノ小兒ノ病歴ヲ記載シタモノデアアル。コノ疾患ハ重症血行性播種性肺結核症ト異リ、経過ハ急劇、且ツ高度ノ氣管枝喘息ヲ伴フタ。著者ハ其鑑別診斷ニ就テ詳細ニ論述シテキル。(黒丸抄)

#### 肺結核症ノ経過中ニ於ケル兩側性特發性氣胸ニ就テ

Karl Berndt u. Rudolf Dierichs: über doppel-seitigen Spontanpneumothorax im Verlauf von Lungentuberkulose.

25歳ノ男、進行シタ兩側肺結核症ノ経過中ニ、相次テ起ツタ兩側乾性部分の特發性氣胸ノ報告デアアル。剖檢ニヨリ、之ハ兩側肺上部ニ於ケル邊縁性空泡性氣腫デアアルコトガ判明シタ。(黒丸抄)

#### 肺動脈寫眞像ニ就テ

Egas Moniz, Lopo de Carvalho u. Almeida Lima: Aus dem Gebiete der Angiopneumographie.

最初試ミタ方法ニヨリ、著者ハ人體肺動脈ノ「レントゲン」造影ニ際シ、膊靜脈及頸靜脈カラ、「沃度ナトリウム」ヲ注入スルコトニ成功シタ。

尙著者ハ、右前房ニ造影劑ヲ注入スルコトニヨリ、肺動脈ニ於ケル造影劑ノ必要濃度ニ達スルコトガ出來タ。又 Forssmann 氏法ニヨリ、膊靜脈カラ右心房ニ「ゾンデ」ヲ用ヒテ120%迄ノ「沃度ナトリウム液」5-6ccヲ注入シ、特別ノ注意ヲ用ヒテ「レントゲン」撮影ヲ施行シタ。(黒丸抄)

#### 實驗的肺動脈寫眞像

F. R. Partearroyo u. T. Minana: Experimentelle Arteriographie der Lungen.

肺内動脈ノ「レントゲン」造影法トシテ、犬ノ頸靜脈ニ「心臟ゾンデ」ニ依ツテ、「沃度ナトリウム」竝ニ Ur-oselectanヲ注入シタ。

之ニ依ルト、通常ノ「レントゲン」像ニ比シ、所謂肺紋理ハ肺動脈像ニヨリ著シク顯著ニナツテキル。

(黒丸抄)

#### 高山地方ニ於ケル早期浸潤ノ療法

#### 保存的療法又ハ虚脱療法

Margarete-Wilhelmini Helmgrid Vogel: Zur Therapie des Frühinfiltrates im Hochgebirge.

著者ハ Davosニ於テ100例ノ治療ヲ行ツタ結果、早期浸潤症ニハ高山療法ガ適スルト云ツテキル。尙著者ハ、保存的ノ療法ニ就テ述べ、適當ノ機會ニ於テハ、虚脱療法ニ移スコトヲ常ニ考ヘナケレバナラナイト云ツテオル。(黒丸抄)

#### 肺結核症患者喀痰ノ脂肪分解酵素量ノ検査

Sándor Puder: Untersuchungen über den lypolytischen Fermentgehalt des Sputums bei Lungentuberkulose.

著者ハ100例ノ肺結核症患者ノ喀痰ニ就テ、「リパーゼ」定量ヲ行ツタ。即、Kanitz 氏法ヲ改良シタ定量分析法ヲ行ツタノデアアル。著者ハ「リパーゼ」ニ依ツテ分解サレタ脂肪酸ノ定量ニ依ツテ「リパーゼ」量ノ比例的「ミリグラム」値ヲ測定シタ。

喀痰中ノ「リパーゼ」量ハ、肺結核症ノ増悪ト共ニ増加スル。從テ血清「リパーゼ」量ト、喀痰「リパーゼ」量ハ反比例スル。即重症肺結核症ニ於テハ、喀痰中ニ「リパーゼ」ヲ排泄スルコト(lipasorrhöe)ノ多イ爲ニ血清「リパーゼ」ハ減少スルノデアアル。(黒丸抄)

#### 偶發所見トシテノ結核

Heiderberg 大學病理學教室ノ剖檢材料調査

Albert Guggenheim: Tuberkulose als Zufallsbefund. (Untersuchungen am Sektionsmaterial des pathologischen Instituts Heidelberg).

著者ハ1918-1927ノ間ニ於ケル Heiderberg 病理學教室ノ解屍材料750例中、546例ノ結核所見ニ就テ統計的觀察ヲ試ミタ。

(1). 單純ノ肺尖部癥痕、及之ニ石灰沈著又ハ白堊化竈竝ニ陳舊性乾酪竈ヲ有スル者ハ、年齡ト一定ノ關係ヲ有スル。1歳カラ14歳迄ノ者ニハ、カナル所見ヲ全ク缺如スル。年齡ノ増スト共ニ増加スル。然シ注意ス可キコトハ、石灰沈著竝ニ白堊化竈及陳舊性乾酪竈ハ高年者(60歳以上)ニ於テハ、之以下ノ年齡ノ者ヨリ少イコトデアアル。

(2). 肺以外ノ臟器ヘノ血行性轉移竈ヲ有スルモノハ、陳舊性肺病竈カラ肺自身ニ轉移シタ病竈ヲ有スルモノニ比較シテ多イノデアアル。肺自身ノミニ限ラレタ病竈ノ轉移ハ、血行性ノモノカ、又ハ氣管枝性ノモノカ、記録ノミニ依ツテハ明カニシ難イ。コノ後者ノ可能性、即氣管枝性轉移ヲ別問題トシテミル

ト、血行性轉移ニ何か他ノ要素ガ加ハツタモノト考ヘラレル。是等ハ主トシテ、45-60歳ノ間ノ者ニ見ラレル。コノ觀察ハ、45歳以後ニ於テ Ghon ノ意義ニ於ケル體内性淋巴腺性再感染ノ増加スルト云フ考ニ一致スルモノデアアル。(Anders)。

(3) 孤立性肺外結核竈ハ、18例ニ存スル。コノ大多數ハ、血行性成生、又ハ其ノ遺殘デアアル。

孤立性臓器結核症トシテハ、腎結核症ノ2例ノミガ記サレテキル。此際粗大ナ肺病變ニ就テハ記載ガナイ。

(4) Puhl 氏竈ハ、45-60歳迄ノ間ノ者ニ特ニ多ク見ラレル(11%)。注意ス可キコトハ、Puhl 氏竈ハ、多クハ肺尖部ニ存シ(42例中、34例)、唯8例ノミハ肺ノ深部ニ存スル。9例ニ於テハ種々デアアル。

(5) 副所見トシテ存スル肺ノ乾酪竈ノ内、16例ハ、解剖學の見地カラスレバ、早期浸潤ト云フ可キモノデアアル。コノ竈ハ、Puhl 氏竈ニ比較シテミルト其ノ竈竝ニ被囊ノ總テノ性状カラシテ、比較的新鮮ナモノト考ヘラレルモノデアアル。

コノ早期浸潤竈ハ、16例中10例ニ於テハ、肺尖下部(鎖骨下部)ニ存シ、ソノ10例中、4例ハ、新鮮ナ病竈ノ外ニ、古イ硬化性ノ、一部分石灰沈著ヲ伴フ處ノ癥痕ヲ有スル。コノ4例中、3例ニ於テハ、古イ病竈ハ、肺尖部ニ存スル。1例ニ於テハ、新鮮ナ肺尖浸潤竈ノ外ニ、結核性腹膜炎ヲ伴フ。

コノ早期浸潤竈ヲ有スル者ハ、主トシテ45歳迄ノ者ガ多ク(12例)、60歳迄ノ者ハ僅カ4例デアアル。其以後ノ年齢ノ者ニハ、他ノ型ノ結核性副所見ハ比較的多ク見ラレルニモカ、ハラズ、早期浸潤竈ハ殆ド全く見ルコトガ出来ナイ。

以上ノ所見カラシテ、高年者ニ於テハ、閉鎖性殊ニ石灰化竈ガ、新鮮病竈ヨリモ、副所見トシテ多ク見ラレルモノデアアルト云フコトガ出来ル。

陳舊性ノ、所謂 Puhl 氏竈ト、新鮮ナ早期浸潤竈トノ差異ハ注目ス可キ事實デアアル。即前者ハ、主トシテ肺尖部ニ存シ、後者ハ、屢々肺尖下部ニ證明セラレルデアアル。早期浸潤竈ガ發育シテ Puhl 氏竈トナルコトハ、臨牀上ノ知識ニ依ツテ知ルコトガ出来ル。従ツテ高年者ニ於テハ、病竈ガ肺尖部ニ移動スルコトヲ認識シ得ル。

(6) 副所見トシテノ進行シタ結核症ハ20例存スル。

コノ内9例ハ、孤立性肺結核症デアアル。

11例ハ病機延期ニ屬スルモノデアアル。而シテコノ内4例ハ粟粒結核症デアアル。

従ツテ剖檢ニ際シ、全身結核症ハ、孤立性結核症ヨリモ副所見トシテ見ラレルコトガ多イヨウデアアル。

(黒丸抄)

#### 兩側人工氣胸例ニ於ケル妊娠竝ニ分娩ノ幸運ナル經過

Gerhard Frischbier: Glücklich verlaufende Schwangerschaft und Geburt bei gleichzeitig bestehendem doppelseitigen Pneumothorax.

1929年8月始、有熱開放性廣汎性兩側増殖性肺結核症ヲ、右側上葉ニ3「マルク」大ノ空洞ヲ有スル3歳ノ患者ガ、Berlin 地方保險局 Beelitz 療養所ニ入所シタガ、豫後ハ甚ク氣付カハレテキタ。

1929年4月カラ右側ニ氣胸ヲ施シ、同年5月カラ左側ニ氣胸ヲ行ツタ。8箇月ノ治療ニ依リ、同年11月ニハ喀痰中ノ結核菌消失シ、同月經過良好テ退所シタ。

其後、兩側氣胸ヲ持續シテキタガ、翌1930年9月、鉗子分娩ニヨリ、健康ナ男子ヲ出産シタ。

出産後左側ノ氣胸ヲ中止シ、右側ノミ持續シタ。

其後1931年8月診察スルニ、母親ノ一般状態ハ良好テ、喀痰中結核菌陰性、赤血球沈降反應竝ニ血液像ハ正調、無熱デアツタ。體重ハ減少シテキタガ、之ハ經濟状態ノ不良ナル關係ニ歸ス可キモノデアアル。

小兒ハ健康デアアル。

(黒丸抄)

#### 血液及喀痰ヨリノ結核菌培養ニ就テノ經驗

Richter, Martha: Erfahrungen über Tuberkelbacillenzüchtung aus Blut und Sputum.

著者ハ3例ノ結核患者ノ血液ヨリ Löwentein 氏法ニヨリ結核菌ヲ培養シタ。コノ内1例ハ、治癒セル兩側氣胸例テ、最後ノ治療ノ直前ニ於テハ頑固ナ膀胱「カタール」(大腸菌、後ニハ結核菌ヲ證明シタ)ノ状態デアツタ。第2例ハ、左肺ニ空洞ヲ有スル肺結核症テ、右腎ノ疼痛ヲ伴ヒ、尿ハ大腸菌ヲ有スル輕度ノ膀胱「カタール」ノ状態デアツタ。第3例ハ、高熱ヲ有スル乾酪性肺炎例デアアル。

以上3例ノ成績ニ反シ、種々ノ型ノ結核症ノ40例ニ就テハ1例モ培養ニ成功シナカツタ。

次ニ、Hohn 氏法ニヨリ、330ノ喀痰ノ培養ヲ試ミタ。培養基ハ Lubenau-Hohn, Petraguani 及ビ Löwentein 氏等ノモノヲ用ヒタ。コノ内、Petraguani

氏培養基が最長アアツタ。

40ノ非特異性例ノ喀痰培養成績ハ皆陰性デアアル。

290例ノ特異性例ニ於テハ、肺結核症第一期(13.6%)

第二期(46.2%)、第三期(76.4%)が陽性デアアツタ。

肋膜穿刺液、尿、膿等ノ培養ニ於テハ、中等度ノ陽性率ヲ示シタ。(黒丸抄)

## Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 60, H. 3, 1931.

### 結核性疾患ニ對スル無食鹽營養ノ效果

Adolf Herrmannsdorfer: Wirkungen Kochsalzfreier Ernährung auf tuberkulöse Erkrankungen.

病歴第 14. 22 歳女、顔面、頸部、左手甲及び右下腿ノ尋常性肥大性竝ニ破潰性狼瘡、右下腿「レントゲン」瘡、營養療法開始後約 14 日ヨリ潰瘍ハ乾燥シ萎縮シ始ム。7 ヶ月ノ後ニハ瘡痕ハ軟クナリ色素沈著減少シ結節殆ド無クナル全身状態良好トナリ體重増加 13.5 kg(營養療法中皮膚瘡ノ爲メ右下腿切斷)

病歴第 15. 30 歳女、顔面及び頭部有髪部ノ尋常性狼瘡、療法期間 9 ヶ月炎衝消滅シ結節極メテ少數ヲ殘スノミ體重増加 15 kg。

病歴第 16. 22 歳男、第 4 及び第 5 腰椎ノ結核性脊椎炎竝右鼠蹊部ノ廣ク開口セル混合傳染性流注膿瘍。流注膿瘍ノ混合傳染ニヨル悪化ノタメ外科的治療中衰弱甚シク敗血性ノ熱型ヲトリ經過不長ナリシニ營養療法ヲ開始シテ約 1 年ノ後ニハ大イニ輕快シ寒性膿瘍ノ創ハ膿汁ヲ排出スル瘻孔ヲ殘シテ大部分閉鎖ス、腰椎ハ叩打或ハ動搖ニヨリテモ疼痛無シ、全身状態良好トナリ體重増加 3 kg(其後 4 ヶ月突然急性敗血症ヲ起コシテ死亡ス)。

病歴第 17. 39 歳女、左頰部ノ尋常性、肥大性及び鱗狀性狼瘡、療法期間 2 ヶ月浸潤ハ全ク無クナリ病竈ハ蒼白且ツ平ラトナリ瘡痕ハ稍々大トナル體重増加 6 kg。

病歴第 18. 40 歳女、潰瘍ヲ伴ヘル鼻ノ粘膜及び皮膚結核、療法期間 6 ヶ月、潰瘍ハ瘡痕トナリ粘膜ノ結核ハ極ク小部分ヲ除キ治癒ス。(中野抄)

### 空洞ヲ有スル肺結核ニ對スル肺靜脈結紮ノ治療の效果

Hans Edel: Die therapeutische Wirkung der Lungenvenenligatur bei Cavernösen Lungentuberkulosen.

肺結核虚脱療法ノ治療の效果ハ主トシテ之ニヨツテ血管ヲ壓迫シテ鬱血ヲ來スノト、患部ノ緊張ヲ除イテ安靜ヲ保タシムルニ由ルノデアアル、肺ニ鬱血ヲ來シ易イ心臟病例ヘバ僧帽瓣狹窄症ナドテハ結核ニ罹

ルコト他ノ場合ヨリモ比較的少イコトガ知ラレテアル。依ツテコノ鬱血ヲ肺靜脈ノ結紮ニヨツテ人工的ニ來ラシメ之ヲ肺結核治療ニ應用シヤウトイフノデアアル之ニ關スル Tiegel 氏ノ動物實驗竝ニ Sauerbruch 氏ノ人體ニ於ケル肺動脈結紮ノ試ミ等ヨリシテコノ肺靜脈結紮ガ人體ニ就イテ手術的ニ可能デアリ又治療的ニ效果アルモノデアルトイフコトハ確ニ得ラル、コトデアアル。自分ハ 4 名ノ患者ヲ Schloffer 教授及ビ Kerschner 氏ニ依頼シテ手術ヲ受ケシメタ所ニ非常ニ效果ガアツタコトヲ感謝スルノデアアル。

第 1 例、38 歳ノ男子、廣範ナル病竈ヲ有スル右側ノ肺結核ニシテ癒着性肋膜炎ノ爲メ氣胸療法成功セズ又他側ノ肺氣腫ノ爲メ胸廓形成術モ行ヒ難キ重症ナル患者ニ肺靜脈ノ結紮ヲ行ヒタルニ翌日ヨリ症狀輕快シ始メ漸次他覺の竝ニ自覺の症狀減退シ 6 ヶ月後ニハ初メ林檎大ナリシ空洞ハ胡桃大ニ縮小シ自覺の症狀殆ド無ク指物工場ニ勤務シテモ障リ無ク 16 ヶ月後ニハ可ナリナ非衛生的生活ニモ堪ヘル様ニナツタ。第 2 例、25 歳ノ男子、右肺ノ上半部ニ病竈アリ、人工氣胸療法成功セザル例之ニ肺靜脈ノ結紮ヲ行ヒシニ 3 週後ヨリ輕快シ始メ 8 ヶ月後ニハ空洞ハ非常ニ小サクナリ他覺の竝ニ自覺の症狀減退ス。

第 3 例 24 歳ノ女子、右肺ノ過半ヲ占ムル結核ニシテ人工氣胸成功セズ、之ニ肺靜脈結紮ヲ行ヒテ相當ノ效果ヲ收サム、サレド他ノ例ニ比シテ後マテ他覺的及び自覺の症狀ノ消失不十分ナリシハコノ患者ノ血液ニ反陽性ナレドモ結核ノタメ驅微療法ヲ行ヘナカッタノニ由ルカ又ハ治療技術其他ノ因子ニ因ルカ今後ノ研究ニ俟タナクテハ不明デアアル。

第 4 例、21 歳ノ女子、左肺後部全般ニ病竈アリ右肺上部モ侵サル、氣胸療法成功セズ横膈膜神經捻除術ヲ行ヘドモ效無シ、コノ患者症狀益々増悪セルニヨリ肺靜脈結紮ヲ行フ、手術後 8 日目ヨリ症狀輕快シ始メ 3 ヶ月後ニハ空洞ハ著明ニ萎縮シ或ハ無クナリ自覺的及び他覺的の症狀大イニ輕快セリ。

以上ノ 4 例ヲ並ビテ明カナコトハ手術直後ハ喀痰量一時急ニ増加スル、コレハ人工氣胸ニ於ケルト同様

テアル、手術直後ニハ充血ノタメ陰影増加スレドモ後ニナツテ浸潤ノ去ルト共ニ消褪スル。

之ニ由ツテ肺靜脈結紮ガ著明ナル治療ノ效果ヲ有スルハ明白テアル。コノ療法ハ退行性壞死性ノ状態ヲ増殖性萎縮性ニ變化セシムルノテアル。手術後後療法ノ必要ガアル。胸廓形成術ヨリモ易ク且ツ術後胸廓ノ變形ヲ來サナイ、症例少ク且ツ經過觀察ノ期間短カク適應症ノ決定等詳シク述ブルコトハ出來ナイガトニカク慢性ノ充血ヲ人工的ニ來サシムルトイフ新方針ノ下ニ今迄他ノ療法ガ無効テアル場合ニソノ缺クル所ヲ補ヒ得ルデアロウ。(中野抄)

#### 肺結核ニ於ケル肺靜脈ノ結紮

Franz kerschner: Die Ligatur der Vena pulmonalis bei Lungentuberkulose (Ein neuer Versuch ihrer Chirurgischen Behandlung)

Tiegel 氏ハ結核ニ感染セシメタル動物ニ肺靜脈ノ結紮ヲ行フトキハ然ラザル動物ヨリモ治癒力大テアル事ヲ實驗的ニ證明シタ、人工氣胸又ハ胸廓形成術ニ於テモ其部ノ壓迫ト安靜ヲ得ル外ニ主トシテ肺虚脱ニヨル血流ノ變化ガ患部ニ好影響ヲ與フルモノテアル事ハ明テアル又内科醫ノ見地ヨリスレバ肺充血ヲ來ス如キ心臟瓣膜症例ハ倍増縮障礙ニ於テ比較的肺結核ノ治癒傾向多イモノテアル、コノ肺充血ヲ人工的ニ起シシメテ治療ニ用ヒントスルモノテアル。變化ノ少イ状態ニアル肺門テハ肺靜脈竝ニソノ枝ヲ結紮スルコトハ差シテ難事テハ無イガ周圍ニ癒着或ハ炎衝性硬結等アル場合ニ如何ニシテ出血ヲ少クシテ血管ヲトリ出スカガ問題テアル、自分ハ肺靜脈及ビソノ枝ヲ完全ニ結紮スルトカ又ハ總テヲ結紮シテシマフトイフコトハシナイ、血管ノ内腔ヲ一部分ノ血液ガ通リ得ルヤウニ絹絲ヲ以ツテ結紮スルカラ Bruns 及ビ Sauerbruch 氏等ノ動物實驗ニ於ケル如キ肺水腫ハ來サナイ、又血栓ヲモ考ヘテバナラスガ今述ベタ様ナ注意ノ下ニ行ヘバ避ケ得ル肺靜脈ノ後壁ハソノ下部ノ組織ト密着シテキル故之ヲトリ出ス時ニ傷ケヌ様又強ク結紮シテ血管内層ヲ傷ケヌ様注意ヲ要スル肺門部ノ手術ノ際ソノ邊ニアル交感神經叢ヲ傷ケ又ハ刺戟スルコトニヨツテ起ル血壓下降ヲ防グ爲メ全身麻醉ニヨツテ手術スベキモノテアルト考ヘル、肺靜脈ハソノ分岐状態ニ種々變化ガアルカラ注意ヲ要スル自分ハ4例ニ就テ之ノ手術ヲ行ツタ、1人ハ左側3人ハ右側ニ行ツタ、イヅレモ1側ノ増

殖性空洞性肺結核デアツタガ將來ハ兩側ニ行ヒ得ルヤウニナルコト、思フ、手術後一時喀痰量増加、體溫上昇スルコトアルモ間モナク下リ其他自覺的及ビ他覺的症狀ノ減退ノ著明ナルコトヲ認メタ、症例少クコレ丈ニテ成績ヲ判定スル譯ニ行カナイガコノ療法ノ持ツ理論的根據ハ大イニ吾人ヲカヅケル而シテ多數ノ患者ニ試ミル價值アルモノト思フ、適應症ノ決定及ビ後療法ハ内科醫ノ注意深イ觀察ヲ必要トスル、上述ノ4例ノ場合ニ適應症ヲ決定シ患者紹介ノ勞ヲ取ラレタ Schmidt 教授竝ニ Edel 氏ニ感謝ノ意ヲ表スルモノテアル。(中野抄)

#### 金屬鹽療法

L. E. Walbum: Metallsalztherapie (Behandlung von experimenteller Meerschweinchentuberkulose)

結核天竺鼠ヲ Mangan 及ビ Kadmium ヲ用ヒテ治療スレバ兩者イヅレノ場合ニ於テモ實驗動物ノ約半数ハ完全ニ治癒スル、金屬鹽溶液ノ注射ニ際シ反應強キタメ適量ヲ正確ニ定メルコトハ治療效果ノ上ニ非常ニ必要ナコトテアル。

Dosen: Manganchlorid  $10^{-9}$  mol (ca.  $\frac{\text{mg}}{1000}$ )— $10^{-10}$  mol (ca.  $\frac{\text{mg}}{100\text{million}}$ ) Kadmiumchlorid  $10^{-7}$  mol (ca.  $\frac{\text{mg}}{100\text{tausend}}$ )— $10^{-11}$  mol (ca.  $\frac{\text{mg}}{1000\text{million}}$ ) (中野抄)

Paetsch 氏ノ發表(相談所醫師ノ立場ヨリ見タル療養所ニ於ケル開放性及ビ非開放性結核患者ノ分離)ニ就キテノ批判

G. Schellenberg: Bemerkungen zu der Publikation: P. paetsch Die Trennung der offenen Tuberkulösen von den geschlossenen in den Heilstätten von Standpunkte des Fürsorgearztes aus Z. Tbk. Bd. 50. H. 5.

療養所ニ於テハ開放性結核患者ト非開放性結核患者トヲ分離シテ收容シナケレバナラヌトイフ Paetsch 氏ノ説ニ賛成スルコトハ出來ヌ、療養所テハコノ兩者ヲ全然區別シテ收容スル事ハ種々ノ困難ガアル又注意シテラレバ全然分離スルニモ及バヌ事テアル、更ニ又經濟上ヨリ見テ之ハ至難ノ事テアル。(中野抄)

#### 全治セル開放性結核 45 例

G. Paelchau: 45 Fälle von geheilter offener Tuberkulose der Lungen.

Charlottenburg ノ市立呼吸器病相談所ノ調査ニヨレバ 804 例ノ開放性結核ノ中 45 例ハ全治シテラル、長イ間菌ノ排泄止ミ咳嗽咯痰其他ノ臨牀的自覺症狀全ク消失シ健康ノ感ヲ持テツ、日々勤勞ニ從事出來ルモノヲ自分ハ全治ト認メタノテアル、コノ 45 例ハ 1 例ヲ除クノ外皆療養所ノ治療ヲ受ケタモノテアル。

(中野抄)

### 肺尖ノ打診

I. D. Mischenin: Perkussion der Lungen-spitzen  
腋窩打診ニヨルト第一期肺結核テハ全例中 90 % 第二期テハ 100 % 「レントゲン」検査ト一致スル。然ルニ普通ノ打診ニヨレバ第一期テハ 55 %、第二期テハ 95 % ノ一致アアル、腋窩打診法ヲ行フニハ患者ノ兩腕ヲ頭部マテ舉ゲサセ左手ノ第 3 指ヲ Plessimeter トシテ用フコレヲ出來ル丈ケ高ク腋窩ノ第 2 肋骨ノ上ニ置キ、第 3 指ヲ第一節ニテ直角ニ曲ゲ第三節ハ眞直ニシテヲキ第一節ノ尖端ヲ中等度ノ強サヲ打ツ、肺尖ニ病的變化アレバソノ側ノ腋窩ノ打診音ハ短縮シテラル、之ヲ兩側腋窩ニツキ交互ニ行フ、コノ方法ハ容易デアアルカラ一般ニ薦メタイモノデアアル。(中野抄)

### 骨及關節結核ノ肺結核ニ對スル關係

Anne Hecker: Die Knochen und Gelenktuberkulose in ihrer Beziehung zur Lungentuberkulose

(Bemerkungen zur Abhandlung von R. Schaa-fhausen)

コレト同ジ題下ニ Schaa-fhausen 氏が發表シタ論文ヲ見テ自分ノ觀察ト一致シナイ所ガアルノテ最近 3 年間ノ自分ノ症例ヲマトメテ觀察シテ見タ、骨結核トソレニ併發セル急性肺結核トノ單ニ全體ニ於ケル數的關係其ノモノニツイテ云ヘバ氏ト自分ト同ジ結果トナツテラルガ生後第 1 年ヨリ成長ノ終リニ至ルマデノ各々ノ年齢ニツイテハ相違シテラル、骨組織ノ結核ハ撒布性結核テアツテ之ノ外ニ原發竈ガアル可キテアル原發竈ハ肺ニ最モ多イ、外科結核ノ患者數ヲ調べル時或人ハ 3 歳マデガ一番多イトイヒ或人ハ 5 歳マデガ一番多イト云ヒ一致シテララス、年齢ガ若イ程内臟結核ハ重ク年齢ノ進ムニ從ツテ治療ノ傾向高マル、コレハ體質ト免疫トニ大イニ關係ガアル、從ツテ年齢ガ高マルニツレテ初期浸潤や氣管枝淋巴腺結核等ガ非活動性ニナツテ行クノニ同時ニ起ツタ骨結核ハ其儘治療セズニ居ルコトガアル、又充分ニ注意シナカツタ爲ニ内臟結核ノ治療遅レ又ハ再發スルコトモアル、故ニ内臟結核ト骨結核トノ關係ニ就キテハ必ズ發病ノ時期ヲ確メナケレバナラヌ、若シコノ年齢ト發病時期トノ關係ヲ考慮シナイナラバ統計ノ結果ハ間違ツテ來ルコトニナル。(中野抄)

## The American Review of Tuberculosis, Vol XXV, No. 6. June. 1932.

### 結核患者ニ於ケル妊娠

Frank L. Jennings, Ernest S. Mariette and Jennings C. Litzembarg: Pregnancy in the Tuberculous.

「結核患者ニ於ケル妊娠」ト言フ問題又此ノ兩現象ガ合併シタ場合ノ處置ニ關シテハ幾多ノ意見ガ多年來呈出サレテ居ル。過去 50 年間ノ一般傾向ハ妊娠ヲ中絶スルコトデアツタガ、之ニ反對スル學者モ相當アル。著者達ガ觀察シタ例症ハ少ナイタメニ確定的ノ事ハ述べラレナイガ Glen Lake Sanatorium ニ於テ 34 名ノ結核妊婦ニ對シテ觀察シタ所ニ依レバ輕症結核ハ妊娠ヤ分娩ニ依ツテ惡化サレルコトハナイ、又若シ結核患者ヲ安靜ニシテ注意深キ適當ナ治療ヲ施スナラバ肺結核ノ理由ヲ以テナサレル人工流産ハ殆ンド不必要デアアル、殊ニ著者ノ内ノ一人ハ人工流産ハ極僅少ノ結核患者ニ適用サルベキモノデアツテソレハ妊娠中ノ最初ノ三ヶ月間ニ施行スベキモノデア

ト述ベテ居ル。

(伊藤嘉抄)

### 妊娠ト結核ニ對スル生物測定學的研究

Frank L. Jennings and Ernest S. Mariette: A Biometric Study of Pregnancy and Tuberculosis.

著者達ハ Glen Lake Sanatorium テ治療シタ結核婦人患者ニ就テ妊娠ト結核トノ間ニ何等カノ關係ガ存在スルカ否カラ研究シタ。觀察サレタ肺結核患者中一度モ妊娠シナカツタ者ハ 390 名以前分娩シタ者ハ 80 名居ツタ。此等 470 名ノ患者ヲ著者ハソノ良惡ノ兩轉歸ニ依リ 2 組ニ分ケ、年齢、病狀、療養生活ノ長短ニ依リ種々ナル統計ヲ作ツテ見タソノ結果妊娠ハ結核症狀ノ進行ニ對シテ影響スルモノテナク此ノ兩現象ハ全ク獨一的ノモノデアアルコトヲ知ツタ。

(伊藤嘉抄)

### 肺結核症ニ於ケル機能的造血試驗

Theodore J. Curphey and Hollis K. Pussell:

Studies on a functional Haematopoietic Test in Pulmonary Tuberculosis.

結核患者ニ「ツベルクリン」ヲ非經口的ニヤツテ其ノ人ノ Haemogram ニ變化ヲ來タサウト試ミラレタ人々ガアル、Bredeck ハ結核患者ニ「ツベルクリン」ヲ皮内ニ注射スルコトニ依リ顆粒白血球ノ増加ヲ見タガ彼ハ「ツベルクリン」注射ニ依ツテ惹起サレル急激ナル刺激ニ對スル骨髓ノ機能的反應ノ程度即チ造血機能反應ヲ完全ニ測定シナカツタ。著者ハ之ニ留意シ前以テ結核患者ノ白血球數ヲ計算シ白血球ノ分類ヲナシ、續イテ 1:1000 ノ「舊ツベルクリン」0.05 ccヲ注射シ血液像ニ表ハレル未熟ノ顆粒白血球ガ注射前ノ數ニ歸ル迄ノ期間ヲ測定シタ。著者達ハ「ツベルクリン」ト同様ニ又非特異的ナル Protein テアル牛乳ヲモ使用シタ其ノ結果結核患者ノ病氣ノ活動性ノ程度ハ「ツベルクリン」ヤ牛乳注射ニ續イテ起ル造血反應ニ直接關係スル様ニ見ヘル。刺激物ノ種類ニ依ツテ造血反應ハ變化サレルモノテハナイ。此ノ試験法ノ簡單ナ點カラ又正確ナル點カラシテ著者達ハ結核ニ對スル専門智識ヲ有スル人々バカリテナク結核ニ對スル特別ナル便宜施設ヲ有シナイ人々ニモ勸メスル次第テアル。

(伊藤嘉抄)

「ツベルクリン」内ノ活動素ノ化學合成ニ就テ標準 XV. (「ツベルクリン」ノ製造ニ適セル沈澱粉「ツベルクリン」蛋白質)

Florence B. Seibert and Betty Munday: The Chemical Composition of the Active Principle of Tuberculin

(XV. Aprecipitated purified tuberculin protein suitable for the preparation of a standard tuberculin. 「ツベルクリン」構成ガ著者達ハ結核動物ノ皮膚反應ヲ惹起スル「ツベルクリン」蛋白質ノ分子内ニ含有サレテ居ルヲ知り、之ヲ化學的純物質ノ形テ取り出ス方法ヲ提案セリ。此ノ方法ハ先ツ病毒性ヲ有スル結核菌ヲ純無蛋白性合成培養基ニ培養シ、之ヲ超越濾過ニ依ツテ濃縮純粹ニシテ更ラニ之ヲ「トリクロール」醋酸ニ依ツテ沈澱サス(著者ハ之ヲ TPT ト命名シタ)此ノ方法ニョツテ製成サレタ物質ノ N. (14.6-15.4%) 並ビニ多糖(1.7-2.0%) 含有ハ時々 1 製成ニ於テ僅カ 1%ノ差異シカ見出サレナイ。又 N 含量ヲ基礎トシテ本物質ノ機能ノ差異ヲ見ルト、其レハ皮膚反應ノ實驗的誤差ノ範圍内ニ在ル。更ラニ

此ノ純「ツベルクリン」蛋白質溶液ハ比較的安定ナモノテ如何ナル強度(即チ「舊ツベルクリン」ト同様或ハ之ヨリ強度)ニテモ貯藏用溶液ヲ製成スル事ガ出來ル。著者達ハ舊「ツベルクリン」ヨリモ 1.6 倍モ強力ナ溶液ヲ製成シ之ノ 1:4000 倍稀釋液 0.1ccヲ結核海狸ニ注射スルコトニ依ツテ最大ナ皮膚反應ヲ惹起スル事ガ出來タ。

著者達ハ又「硫酸アンモニウム」ニ依ル沈澱ニテ同ジ機能ノ純物質ヲ製成シタガソノ操作ガクドクシク且ツ長時間ヲ要シ、ソノ上「硫酸アンモニウム」中ニアル Nノタメニ、タヤスイ定量の仕事テハナカツタ。診断ニ使用サレル「ツベルクリン」ノ機能ヲ統一スルニハ皮内反應試験法ニ依ラナケレバナラナイ、又ソノ定準液ガ出來タナラバ同時ニ既定準液ト一所ニ試験スベキモノテアル、ト言フノハ皮膚反應ヲ惹起スル最少量ハ使用サレタ海狸ノ感受性ニ依ルモノテ此ノ感受性ハ又動物並ビニソノ菌系ノ状態及ビ接種サレタ結核菌量ニ依ルモノテアル。

著者達ガ Long 氏合成培養基上ノ結核菌 8 週間培養カラ得タ 1 立ノ「ツベルクリン」カラ製出サレタ TPT ノ量ハ 183 mg テ 3 ヶ月間ノ培養デアツタナラバ 295 mgm テアル。此ノ方法テ製出サレタ「ツベルクリン」蛋白質(TPT)ハ Antigenitic テアル。TPT ニ對スル豫備的臨牀試験ニ於テ本物質ノ 0.001 mgm (或ハ之ヨリ少量テ結核患者ニ皮膚反應ヲ現ハス事ヲ得タ、又之ガ診断ノ目的ニ對シテ安全ヲ満足スベキ物質テアル事ヲ知ツタ。著者達ハ又 Koch ノ「舊ツベルクリン」ヲモ同ジ方法テ分析シタ處「舊ツベルクリン」100ccカラ「トリクロール」醋酸ニ依ツテ 707 mgm ノ蛋白ガ沈澱サレタ。此ノ蛋白ハ TPT ト殆ンド同ジ活動能力ヲ有シテ居ツタガ此ノ物ノ分離ハ製成過程中ニ於テ約 33%ノ機能が消失サレタ、機能ノ點カラ言ヘバ TPT 1 gmハ「舊ツベルクリン」100 ニ相當スルモノテアルト。

(伊藤嘉抄)

幼兒結核ニ就テ

(結核患者ノ診断並ビニ「ツベルクリン」反應ノ程度ニ對スル臨牀的所見並ビニ「レントゲン」所見ノ價值)

Ernst Wolff, Robert S. Stone and Frederick Ebersson: Juvenile Tuberculosis Suspects. (An Evaluation of the Clinical and Roentgenological Findings in Relation to the Diagnosis and

## the Grad of the Tuberculin Reaction.

疑ハシイ幼兒結核ニ現ハレル種々ナル臨牀の症狀、理學的所見竝ビニ種々ナル試験方法ノ症候の價値ニ就テハ色々議論ガアル、近時一般傾向ハ之等ノ症候ヲ捨テ、寧ロ「レントゲン」所見ヤ「ツベルクリン」反應ニ依ラントシテ居ル。著者ハ此ノ意味ニ於テ之等種々ナル要約ニ對スル價値ヲ見出サントシテ「ツベルクリン」反應陰性幼兒 100 名「ツベルクリン」陽性幼兒 200 名ニ就テ精細ナル觀察ヲナシタ處(1)臨牀の症狀ヤ理學的の症候ハ決シテ確定的ノモノテナイコト。(2)以前結核患者ト確カニ接觸シタコトガアルト言フ既往症ハ多少制限ハアルガ稍々價値アルモノデアル。(3)「レントゲン」所見ハ症候の價値ヲ有ス。(4)著者達ノ觀察シタ例ニ於テハ「ツベルクリン」反應ハ確定的價値ヲ有シテ居ツタ、之ハ又病傷ノ活動性ノ有無ヲ決定スルニモ價値アル様ニ見エルト。(伊藤嘉抄)

## 成人ノ腎臟結核ニ對スル臨牀の注意事項

Leo V, Schneider: Clinical Notes on Renal Tuberculosis in Adults.

腎臟結核ハ生存中ヨリハ死後ニ於テ、ヨリ多ク診斷サレルモノデアル、之ハ本症ノ初期ニ於テ腎臟ヤ尿道ニ附隨シタ症狀が多クノ場合現ハレナイカラテアル。肺臟ガ結核症ニ依ツテ侵サレル程度ノ強弱ハ腎臟結核ニ何等特別ノ關係ヲ有シナイ、本症ハ主トシ

テ 20-40 歳ノ男子ニ多イ、初期腎臟結核ノ臨牀症狀ハ至ツテ曖昧ナモノデ寧ロ暗示ニ依ツテ診斷サレルモノデアル。絶エザル驗尿、動物試験、腎臟ノ機能試験ヤ膀胱鏡検査法ハ初期腎臟結核ノ診斷ニ大切ナモノデアル。一側性ノ腎臟結核ノ最モヨイ療法ハ腎摘出術デアル(但シ之ハ他側ノ腎臟機能が損セラレテ居ラナイ場合デアル)、本症ノ早期ニ施行サレタ腎摘出術ハ患者ノアラユル症狀ヲ直チニ輕快セシメルモノデアルト。(伊藤嘉抄)

## 胸部「レントゲン」撮影用「紙フィルム」ノ使用技術ニ就テ

Margaret Witter Barnard, J Burns Amberson, Jr., and Marion Franklin Loew: The Technique of using Paper Films for Roentgenograms of the Chest.

高價ナ「セルロイドフィルム」ニ代ルニ廉價ナ「紙フィルム」ヲ使用スルコトヲ考ヘ付キ著者達ハ National Tuberculosis Association ノ依頼ヲ受ケテ「紙フィルム」ニ依ツテ 100 名ノ患者ノ胸部撮影ヲナシタ所「セルロイドフィルム」ノ影像ハ精細ナ所迄現ハレルガ「紙フィルム」トテモト殆ンド近似的ナ影像ヲ寫シ得ル、又或ル狀況ノ下ニ於テハ之ニ瓦キ代用品タリ得ル、代價ノ點カラハ「紙フィルム」ハ「セルロイドフィルム」ノ半値ヲ購入サレルト。(伊藤嘉抄)